

講習会後のアンケートでの質問あれこれ

……つづきです

Q5. 種まきの作業場所は、どれくらい必要か？

A：約半坪くらいです。

Q6. 腐葉土の作り方について

A1：落葉は杉、桧の木、松、イチョウ以外なら何でも良く、小枝に混じったままでも良い。積み込む場所は、ブロックで囲った栽培棚の下が良い。(私の場合は、70×70×70cmで底なしの棚囲いです。)少量なら、化繊の肥料袋に詰めても良い。これらの落ち葉は、20cmぐらい積んで水を打ち、足で踏みつけながら1㎡あたり1握り、油カスは少し振りまき、重ねて堆積します。堆積後、飛散しないようシートをかぶせ、乾燥を防ぎますが、密閉すると腐熟しないので、すき間をあけておきます。

その後は、春先まで月1回出して、水を補給しかき混ぜ、再び積み込む。2、3回積み直して発熱しなくなったら完熟です。(完熟したものは、色が黒く葉の断片は小さい。未熟なものは、茶色葉の原形をとどめている。)

4月頃に、完熟した腐葉土になります。出来上がった腐葉土は、乾燥したビニール袋に入れて保存します。そのまま放っておくと泥になり、灰分だけ残って使い物になりません。

【参考】

発酵促進剤コーラン(尿素)等を混ぜると、高温発酵し病原菌の防除と悪臭防止の効果があります。

落葉	肥料袋	10杯	米ヌカ	3kg
	油カス	1.7kg	コーラン(尿素)等	300g

A2：11月末頃、広葉樹の落葉(コナラ、サクラ、ケヤキ等)を集める。グラウンド等に広げて、ジョロで散水しその後、米ヌカか油カスを振って混ぜる。木箱に入れて、踏み込んで発酵させる。1ヶ月後、箱から出してかき混ぜて、再び寝かせる。冬の間、雨が降らない時は、散水してやる。2月頃、2回目のきり戻しをやる。4月に入って、手で擦んで小さくし、ビニール箱につめて保管。5月から使用できる。その他の注意事項としては、小枝は入れないこと。針葉樹は、コーラン(尿素)を混ぜると速く完熟する。空気と雨水にさらすこと。密閉容器はダメ。

Q7. ナメクジや害虫等の対応について

A1：①鉢やプランタン等は、土の上へ置かないこと。②冬期には、害虫の卵をつぶすこと。

③花ガラや落葉、枯れた株の後始末をする。④除草はこまめにする。

⑤苗を植える1週間前に、オルトラン粒剤を土にすきこむ。

⑥ナメクジ、ダンゴ虫の駆除剤をまく。(水やり後)⑦夜、ヨトウ虫駆除。

⑧古い土は使用しないこと。(使用する場合はフルイにかけ、土を湿らせビニール袋に入れ密封し、日の当たる場所に5、6日、春秋には20日程おいて殺菌し、3、4日して使用する。3、4回再生できます。)

A2：ナメクジ退治は、夜間の捕殺が1番。飲みかけのビールをコップに入れて誘引する。

薬品(ナメクジ退治剤)を使う。

秋の花めぐり

毘沙門台第3南公園の花壇：毘沙門台一丁目



『公園に花壇を作りましょう』の声で昨年5月、地域を愛する5名の皆さんと2箇所、約3.3㎡の花壇を作りました。雑草の根を掘り起こし、固い土をほぐし、腐葉土、肥料を入れ、日々草、インパチェンス、サルビアなど春の苗を植え、公園は見違える程明るく、華やかになり「きれいね！」と歓声が上がり、汗を流した後の喜びもひとしおでした。春、夏、秋と植替えをし、四季を通して楽しめるよう心がけていますけど？可憐に咲く花、それぞれ主張しながら育っている彩花いろいろです。

環境美化の一環として、また地域の方が忙しい日々の中、花をめぐり、ふれあい、やすらぎの場となればと、スタッフ一同ささやかながら協力し、自分達に出来ることから花づくりのお世話をしています。

グループ サクラ

山手会館の花壇：八木四丁目



安佐南区花いっぱい運動に参加して2年目です。

私たちは地区の集会所である山手会館のフェンスのそばに50個くらいのプランターを並べて花作りをしています。毎週水曜日を“花の日”として集まり、植え替え、施肥などいろいろ花の手入れをします。水遣りは5人が1週間ずつ交代で受け持っています。

私たちは種蒔き、株分け、挿し芽、こぼれ種からの苗など“手作り”にこだわっています。春から秋にかけてはベゴニア、コリウス、サルビア、ジニア、ニチニチソウ、トレニアほかを楽しみました。

今は秋蒔きのピオラ、パンジーなどに挑戦中です。

八木山手花の会